

一般社団法人千歳青年会議所
2015年度年間報告書

「射石飲羽」

～信じる気持ちと力強い行動が人を磨きまちを輝かせる～

一般社団法人千歳青年会議所

事務局

〒066-0042 千歳市東雲町三丁目2番地の6 千歳商工センター1F
Tel: 0123-24-6868 Fax: 0123-24-6868
URL: <http://chitose-jc.com/> E-mail: mail@chitose-jc.com



The Creed of Junior Chamber International

We believe:

That faith in God gives meaning
and purpose to human life;
That the brotherhood of man
transcends the sovereignty of nations;
That economic justice can best be
won by free men through free enterprise;
That government should be of laws
rather than of men;
That earth's great treasure lies in
human personality; and
That service to humanity is the best
work of life.

JCI 綱領

我々はかく信じる：
「信仰は人生に意義と目的を与え
人類の同胞愛は国家の主権を超越し
正しい経済の発展は自由経済社会を通じて
最もよく達成され
政治は人によって左右されず法によって
運営されるべきものであり
人間の個性はこの世の至宝であり
人類への奉仕が人生最善の仕事である」

JC 宣言

日本の青年会議所は
混沌という未知の可能性を切り拓き
個人の自立性と 社会の公共性が
生き生きと協和する確かな時代を築くために
率先して行動することを宣言する

綱 領

われわれ JAYCEE は
社会的・国家的・国際的な責任を自覚し
志を同じうする者 相集い力を合わせ
青年としての英知と勇気と情熱をもって
明るい豊かな社会を築き上げよう

JCI MISSION

To provide development
opportunities that empower young
people to create positive change
青年が積極的な変革を創造し開拓するために
能動的に活躍できる機会を提供する。

JCI Vision

To be the leading global network
of young active citizens

千歳 JC 運動方針

私達は、地域に寄与する団体として
千歳の優位性を最大限に活かすと共に
輝くまちの魅力を創出し
一人ひとりがふるさと千歳を愛する心を醸成し
地域と共に育む「ひと」「まち」の創造・実践を
今後の運動方針とする。

行動提案

1. 「地域の魅力」輝く千歳創造運動
2. 「ふるさと愛」溢れる千歳創造運動
3. 「志高い市民」集う千歳創造運動

2015 年度 スローガン

「射石飲羽」
～信じる気持ちと力強い行動が人を磨きまちを輝かせる～

基本理念

「行動してこそ真実が見える」
行動したことのみが自分自身を
大きく成長させることができます。
また、失敗も行動した人のみが体験できる成果です。
常に目的に向かって行動し続けることが達成に必要です。
思いついたこと、考えたことはとにかく
行動することで真実が見えるのです。

会員拡大特別会議議長からのメッセージ

一般社団法人千歳青年会議所

2015 年度 会員拡大特別会議 議長 高田 周一郎

卒業生が中心となって会員拡大を実施し、多くのメンバーを残して卒業して欲しいとの井浜利光理事長の方針により会員拡大特別会議が設置されました。

前期は、会員拡大候補者との交流会を積極的に開催することで5名の新入会員を迎え入れることができました。その結果、八戸における全国大会では、33パーセント超拡大LOMとして井浜理事長が表彰されました。また、後期は、「仲間を増やそう～青年会議所を通じたまちづくり、ひとづくり」をテーマに日本JCシニア・クラブ拡大支援委員会シニアアドバイザーである矢口健一先輩にご講演いただくことでメンバー全員の会員拡大に対するモチベーションを向上させることができました。メンバー一丸となって会員拡大を行った結果、平成28年1月1日付入会者を10名以上迎えることができました。

これだけの多くの新入会員を迎えることができたのは、多くの仲間とともにこの千歳をよくしていきたいという正会員全員の想いの賜物です。このメッセージをお読みいただいた皆様からも新入会員をご紹介いただくことを切にお願いし、私からのメッセージとさせていただきます。



会員拡大情報

お待ちしております！

一般社団法人千歳青年会議所

〒066-0042

北海道千歳市東雲町三丁目2番地の6

千歳商工センター1F

TEL&FAX:0123-24-6868

目次

会員一覧	(2)
理事長報告	(3)
事業・例会報告	(5)
活動報告	(13)
1. 直前理事長 南雲 勇次	
2. 監事 佐藤 元康	
3. 外部監事 福田 拓也	
4. 副理事長 増子 洋行	
5. 副理事長 高田 周一郎	
6. 専務理事 中山 千太朗	
7. まちの魅力推進委員会 委員長 大宮 裕輔	
8. 市民力推進委員会 委員長 中田 愛	
9. ふるさと愛推進委員会 委員長 三澤 計史	
出向者報告	(18)
1. 公益社団法人日本青年会議所 総務グループ渉外委員会 委員 公益社団法人日本青年会議所 北海道地区協議会 JC運動発信委員会 委員 勝俣 雅代	
2. 公益社団法人日本青年会議所 総務グループ渉外委員会 委員 吉岡 毅	
3. 公益社団法人日本青年会議所 北海道地区協議会 顧問 佐藤 元康	
4. 公益社団法人日本青年会議所 北海道地区協議会 道央エリア運営会議 運営議長 南雲 勇次	
5. 公益社団法人日本青年会議所 北海道地区協議会 道央エリア運営会議 幹事 岡田 恵	
6. 公益社団法人日本青年会議所 北海道地区協議会 道央エリア運営会議 議員 鳴海 昌成	
7. 公益社団法人日本青年会議所 北海道地区協議会 地区大会運営委員会 副委員長 瀧 雄一	
8. 道央エリアアカデミー塾 塾生 曙 嘉輝	
9. 道央エリアアカデミー塾 塾生 伊藤 香織	
10. 道央エリアアカデミー塾 塾生 今井 涼	
11. 道央エリアアカデミー塾 塾生 大宮 裕輔	
12. 道央エリアアカデミー塾 塾生 三澤 計史	
会計報告・・・別添資料	

一般社団法人千歳青年会議所

2015年度 会員一覧

理事長	井溪 利光
直前理事長	南雲 勇次
監事	佐藤 元康
監事（特別会員）	福田 拓也
副理事長	増子 洋行
副理事長	高田 周一郎
専務理事	中山 千太郎
まちの魅力推進委員会	
委員長	大宮 裕輔
副委員長	伊藤 香織
幹事	瀧 雄一
委員	曙 嘉輝
委員	勝俣 雅代
委員	木村 利貴
委員	佐藤 一馬
委員	中田 圭介
委員	和田 拓
市民力推進委員会	
委員長	中田 愛
副委員長	曾我部 喬
幹事	鳴海 昌成
委員	太田 憲之
委員	岡田 恵
委員	羽生 健太郎
委員	深谷 信之
ふるさと愛推進委員会	
委員長	三澤 計史
副委員長	加藤 寛志
幹事	吉岡 毅
委員	今井 涼
委員	大廣 奈津子
委員	坪田 松生

理事長報告



一般社団法人千歳青年会議所 第52代 理事長 井溪 利光

一般社団法人千歳青年会議所は、昨年創立50周年を迎え、「地域の魅力輝く千歳創造運動」「ふるさと愛溢れる千歳創造運動」「志高い市民集う千歳創造運動」の新たな3つの行動提案を策定いたしました。今年は、行動提案に沿った3つ目の柱となる事業を立ち上げることができました。1つ目は、国立公園である支笏湖を源泉とした千歳の「たから」である千歳川の魅力を発信する「CHITOSE RIVER CITY PROJECT 2015」。そして、2つ目に、今年度初開催となる高校生を対象としたふるさと事業「千歳ふるさと青年大使は君だ！2015」。3つ目は、今年で3回目となる千歳市民討議会です。2015年度『「射石飲羽」信じる気持ちと力強い行動が人を磨き、まちを輝かせる』というスローガンをもとに自分を信じ、ついてきてくれた会員一人ひとりを信じ、理事長として精一杯の背伸びをさせて頂きました。そして、本年、所信に掲げさせて頂いた目標を最後まで遂行することができたのも会員一人ひとりの尽力はもとより、多大なるご支援・ご協力いただいた千歳青年会議所OB諸兄の皆様、さらには千歳市行政、関係諸団体、市民の皆様のお陰であります。一般社団法人千歳青年会議所会員を代表いたしまして厚く御礼申し上げます。そして、一年間の運動について理事長所信に沿ってご報告させていただきます。

【千歳の魅力を最大限に活かして】

私たちの住む千歳市は、国内、国外線ともに利用者数が増加し続ける空の玄関口としての空港を有し、また、国立公園を有する豊かな自然環境は観光の名所として例年多くの観光客が来訪されるなど、これからも千歳のまちには多くの可能性がひろがっていくことが期待されます。昨年、創立50周年記念事業として立上げた「CHITOSE RIVER CITY PROJECT」をさらに発展させるべく、千歳市内外の人が地域の魅力に触れることで千歳川に継続的に集い、地域全体の交流人口を増加させ、まちの賑わいを創出していくことを目的に開催しました。二日間で延べ約10,000人にご来場いただき、千歳川の魅力を感じていただきまちの賑わいを創出することができました。今後も事業を継続的におこない、市民の皆様を巻き込むと同時に市外、道外からも来場者を増やしていくことで、地域の魅力として私たちの千歳川が、まちの「たから」としての意識が高まり、中心市街地の賑わいや活気づくりをおこなっていくことで千歳の発展につなげることができます。

【ふるさと千歳を好きになろう】

何の為に「ふるさと愛」を育むのか。それは、ふるさとへの愛着心から自分たちのまちを良くしていこうとする思いをもっていただきたいからに他ありません。これまでも先人たちが千歳の未来を見据え未来を生きる私たちの為に切り拓いてきた今があるからこそ、私たちは何不自由なく暮らすことができているのです。今年度、初開催となる高校生を対象としたふるさと事業「Junior Chitose Ambassador 2015」は、千歳の高校生が千歳のことを学び、地域の魅力を発信する活動を通じ、地元への強い愛着と誇りを持った次世代のまちづくりのリーダーに育っていくことを目的として、今年度、新たに立ち上げた事業となります。当口は、9組37名の高校生達による素晴らしいプレゼンテーションが行われました。事業開催に至るまでには多くの高校生や学校関係者の協力に

より成功させることができました。事業当日、高校生のプレゼンテーションの完成度は我々が想定していたものを遙かに上回るできで、今後も大きな可能性を感じさせる事業として次代を担うリーダーを育成することができます。

【みんなで進めるまちづくり】

自分たちのまちは誰が変えていくのか。それは行政ばかりが行っていくのではなく、私たち市民一人ひとりの声と行動がまちを変えていくものであります。市民自らが地域を考え良くしていこうという当事者意識をもって率先して行動することができればさらに千歳のまちは良くなると考えます。市民主導のまちづくりを実現するため、第三回千歳市民討議会「Voice of ちとせ みんなで語ろう！確かな未来」を開催致しました。当日は、52名の市民の皆様にご参加いただき、「千歳の中心市街地」や「千歳川の環境問題」について討議を実施いたしました。本年は市民討議会実行委員会を立ち上げることで、市民主導のまちづくりに向けて、さらに一步市民意識の向上といった分野で事業を発展させることができました。近年、千歳市においても市民会議や懇話会などといった市民参加型の会議が行われ、青年会議所の代表としていくつかの会議に参加させて頂きましたが、年齢層を見てみると40代以上の方の割合が多く、若い世代がまちづくりに参加していないと感じました。今後の課題としては若い20代から30代の青年、責任世代にもっとまちづくりに関わりをもつ機会を創出していくことで、更に広い視野で市民の声を集めることが可能とすることができます。

【これからの千歳青年会議所を見据えて】

千歳青年会議所は、運動方針並びに行動提案を軸にまちづくりの基軸となる事業を展開しています。本年は三つ目の軸となる事業が立ち上がり、私たちのまちづくり運動は千歳の未来を切り拓いていけると確信しています。しかし、素晴らしい事業を行ったとしても賛同し参画する会員が少なくでは波及される効果は望めません。この三つの事業を軸にさらに千歳の未来を見据えまち発展させていくには会員数を増やしていくことが必要だと考え、本年は会員拡大にも精力的に取り組んでまいりました。当初23名の会員でスタートしましたが、現在28名まで会員数を増加させることができました。更には、来年1月スタート時には34名の会員数の確約をとることができました。私一人の力は微力ですが、会員拡大特別会議の高田議長を始め委員会の皆さま、そして中山専務を始めメンバーの皆さま一丸となった結果が目標を達成することができました。理事長はあきらめずに目標を言い続ける事が結果を出すことにつながります。

【責任と英知と情熱をもって】

年頭初、私の理事長所信に基本理念として、「行動してこそ真実がみえる」と書かせて頂きました。事業を企画していく過程において、今ではインターネットを見ればいろんなことを調べることができます。しかし、インターネットはあくまでも他人の情報であり、自分の経験や体験した事ではなく、そのまま扱ってしまえば信憑性に欠けてしまいます。やはり自分の足で行動し、自分の目や耳で確かめてみる。行動は人と関わり約束事をする事により責任が生まれ、人と関わる事により生かすことができる知識、英知を高める。そして、最初は半信半疑かもしれない気持ちですが、自分の可能性を信じ行動し続けていくことで情熱に変わっていくのです。千歳青年会議所の活動を通して、会員一人ひとりが行動したことで自分を磨き、まちを輝かせる「だから」として成長することができました。

【結びに】

2015年度の運動の柱となる理事長所信を掲げ、12月最後の例会まで理事長としての役職を全うできたのは三役を始め、会員一人ひとりの支えがあったからこそ理事長として走り続ける事ができました。また、事業構築から開催に至るまで、ご支援ご協力頂きました千歳青年会議所OB諸兄の皆様を始め、千歳市行政、関係諸団体、市民の皆様のおかげであることを感謝御礼申し上げ、私から一年間のご報告とさせていただきます。一年間本当にありがとうございました。

事業・例会報告

1月例会（新年交礼会）

日時	2015年1月15日（木）18:00～20:00
場所	ANAクラウンプラザホテル千歳2階 千歳の間
テーマ	「射石飲羽」～信じる気持ちと力強い行動が人を磨きまちを輝かせる～
主管	ふるさと愛推進委員会

本年度最初の例会として、関係諸団体や千歳青年会議所OB会の皆様に新体制を披露し、交流させていただくことを目的として実施し、第52代井浜利光理事長より本年度の運動の方向性を示すべく新年のご挨拶をさせていただきました。当日は132名の方々にご参列いただき、新体制のスタートを切ることが出来ました。



2月例会

日時	2015年2月12日（木）19:00～21:00
場所	千歳商工センター2F 大会議室
テーマ	第三回市民討議会に向けて意識を共有しよう！
主管	市民力推進委員会

市民討議会の実施に向けて、昨年11月に設立した千歳市民討議会実行委員会メンバーとともに、市民討議会について理解を深めるため、北海道大学准教授の三上直之氏にご講演いただきました。本例会を通じ、市民討議会の意義が市民意識の改革であるという認識を共有し、「第三回千歳市民討議会」の実施へ向けた準備を行うことが出来ました。



3月例会

日時	2015年3月12日（木）19:00～21:00
場所	千歳商工センター2階 大会議室
テーマ	千歳川の可能性と未来像を語り合おう
主管	まちの魅力推進委員会

本例会は、7月事業に向けて昨年度参加していただいたボランティア、出演者、関係団体との協力関係の構築、対内向けには、10年構想として事業の重要性を共有し、まちの魅力を高めるという共通認識の醸成を図ることを目的に実施致しました。当日は63名が出席し、北海道開発局、ミズベリングの方にご協力いただき「ミズベリング千歳会議」を開催し千歳川の未来像を完成させました。



4月例会

日時	2015年4月9日（木）19:00～21:00
場所	千歳商工センター2階 大会議室
テーマ	ふるさと愛の醸成
主管	ふるさと愛推進委員会

本例会は、本年度初めて開催した「ふるさと事業～千歳ふるさと青年大使は君だ！2015」に向けて高等教育機関関係者、市内企業、関係諸団体と協力関係を構築するとともにふるさと愛を醸成する必要性を理解していただくことを目的に実施致しました。例会当日は16名の方にご参加いただき、ふるさと事業に対する貴重なご意見をいただくことができました。



5月例会（3LOM 合同例会）

日時	2015年5月12日（火）
場所	北広島市総合体育館 メインアリーナ
テーマ	絆をつなごう！3LOM ミニバレー大会 ～苦しくたって 悲しくたって チームの仲間がいるんだもん～
担当	まちの魅力推進委員会

本例会は、恵庭青年会議所、北広島青年会議所と共同で例会を行い、交流等を通じて親睦を図り、相互に刺激し合い成長することを目的として実施致しました。本年は北広島青年会議所が主管となり、北広島総合体育館でミニバレー大会を実施し、3LOM 総勢 47 名が所属する LOM の役職、経験年数などに囚われることなく汗を流しながら親睦交流を深めました。



第三回千歳市民討議会

日時	2015年6月21日（日）
場所	千歳公民館 大集会室
テーマ	Voice of ちとせ みんなで語ろう！確かな未来
主管	市民力推進委員会

まちづくりに関心を持つ機会の無かった無作為にて抽出された市民の皆様と市民力推進の必要性を確認し、まちの課題や問題に向き合い討議することで、千歳に対する関心を高め、まちづくりの必要性と当事者意識の醸成を行う本年で第三回目となる市民討議会を、今年度は有志にて参加いただいた市民討議会実行委員会メンバーと共に企画・運営し開催致しました。



7月例会

日時	2015年7月7日（火）
場所	ホテルグランテラス千歳 2階 鳳凰の間
テーマ	仲間を増やそう～青年会議所を通じたまちづくり、ひとづくり
主管	三役

千歳青年会議所の入会候補者に青年会議所活動の魅力を知っていただくとともに正会員の会員拡大へのモチベーションを向上させることを目的として実施致しました。講師として日本JCSニア・クラブ拡大支援委員会シニアアドバイザーである矢口健一先輩をお招きし、青年会議所を通じたまちづくり、ひとづくりについてご講演いただきました。



CHITOSE RIVER CITY PROJECT 2015

日時	2015年7月19日（日）・20日（月）
場所	千歳川河畔公園・河川敷
テーマ	CHITOSE RIVER CITY PROJECT 2015 ～千歳川で会いましょう～
主管	まちの魅力推進委員会

昨年に続き2回目の開催となった本事業は、市民をはじめ市外の方にもご来場頂き、千歳川に愛着を持ち千歳に対する魅力を感じて頂くことを目的に開催致しました。今年は天候にも恵まれ2日間で約1万人の方にご来場いただき、オープンカフェや音楽ステージ、プロジェクションマッピングの他、千歳川清流下りを実施し昨年以上の賑わいを見せ盛況裡に終了いたしました。



ふるさと事業

日時	2015年8月9日（日）
場所	北ガス文化ホール
テーマ	千歳ふるさと青年大使は君だ！2015
主管	ふるさと愛推進委員会

高校生が千歳のことを学び地域の魅力を発信する活動を通じ、地元への強い愛着と誇りをもった次世代のまちづくりのリーダーとなっていくことを目的として実施致しました。

事業当日は9組37名の高校生に千歳の魅力についてプレゼンテーションをしていただきました。生徒たちの発表はすべて個性溢れる素晴らしい内容であり、千歳市のたからとなる地域に対する愛着を持った子供たちと出会うことが出来ました。



8月例会

日時	2015年8月20日（木）
場所	納涼盆踊りメイン会場
テーマ	浴衣の女王選手権2015
主管	まちの魅力推進委員会

今年もまちづくり団体の一員として千歳市民納涼盆踊り大会へ参加し、踊りや寄付を通じて地域への貢献活動を行いました。第5回目となる浴衣の女王選手権では、15名の方が出場され盆踊り大会に華を添えていただきました。また、今年は、来場者にも楽しんで頂くことを目的に旅行券の抽選会など、これまでの盆踊り例会にない企画を盛り込み実施することが出来ました。



9月例会

日時	2015年9月10日（木）19:00～21:00
場所	千歳商工センター2F 大会議室
テーマ	2015年度千歳市民討議会 報告会 「高めよう市民の声！」
主管	市民力推進委員会

今年度に開催した第三回千歳市民討議会の実施に至る報告、また討議会の価値を高め、行政からも討議結果を市の政策決定の選択肢の一つとして期待される市民討議会へと進化させるために、実行委員会にて今回討議会で抽出された市民の意見を検証し、価値のある提言書を作成することを目的とした、公開実行委員会となる例会を実施致しました。



10月例会

日時	2015年10月15日（木）19:00～21:00
場所	千歳商工センター2F 大会議室
テーマ	CHITOSE RIVER CITY PROJECT の更なる成長と飛躍に向けて
主管	まちの魅力推進委員会

本例会は、7月に実施した CHITOSE RIVER CITY PROJECT 2015 の事業報告と来年以降の開催に向けた対外関係者との協力関係の構築、事業の将来ビジョンを理解いただくことを目的に実施致しました。例会では千歳川を中心にまちの賑わいを創出するために、3年目以降の事業をどのように構築し発展させるかについてテーブル毎にディスカッションを行い、出席者から様々な意見が出されました。



11月例会

日時	2015年11月12日（木）19:00～21:00
場所	千歳商工センター2F 大会議室
テーマ	ふるさと事業報告会～青少年と共に育むふるさと愛～
主管	ふるさと愛推進委員会

例会前半では、本年度8月に初めての開催となった「ふるさと事業～千歳ふるさと青年大使は君だ！2015」の事業報告と今後の展望についてふるさと愛推進委員会よりプレゼンテーションさせていただきました。また、例会後半では、市内教育機関関係者や関係諸団体の皆様を交えて、事業の発展に向けて、現状の課題や改善方法などについてテーブルディスカッションを行いました。



11月第二例会

日時	2015年11月26日（木）19:00～21:00
場所	千歳商工センター2F 大会議室
テーマ	次世代のJAYCEEよ、未来を変えてやれ！
主管	次年度三役

本例会では、これから新体制を迎えるにあたり正会員に、今後のJC運動への活力を持っていただくことを目的に開催致しました。本年度卒業の経験豊富な佐藤元康君に講演を頂き、入会動機や入会当初の思いに加えて、出向先での出会いや経験などをお話頂きました。正会員各々が今の青年会議所の自分に置き換えながら講演を聞き青年会議所運動に対する見識と知識を深めました。



12月例会

日時	2015年12月5日（土）
場所	THE BELLCLASSIC Lien～絆～Heiankaku
テーマ	「射石飲羽」～意志を貫き、残した功績を次代へ～
主管	市民力推進委員会

本年度は勝俣雅代君、佐藤元康君、高田周一郎君、和田拓君の4名がご卒業されました。千歳青年会議所OB諸兄をお招きし、理事長、次年度理事長から挨拶、各委員会から本年度の活動報告を行い、1年間の運動の成果を参加者全員で労いました。例会の最後は皆で手をつなぎ輪になって若い我らを斉唱し千歳青年会議所の絆を深めました。



活動報告

直前理事長 南雲 勇次

直前理事長の担いを受け早いもので一年が終わろうとしています。

「射石飲羽」～信じる気持ちと力強い行動が人を磨きまちを輝かせる～のスローガンのもと運動を展開してきた本年、直前理事長としてその責務を全う出来たのかということと後悔の残る一年でありました。私事で長期離脱をしなければならなかった事が本当に悔やまれます。しかし、参加できた理事会・例会においては憎まれ役となるべく、本当に厳しい意見を担当者に対してぶつけてきました。直前理事長として今までの経験を活かし優しく伝えていこうと思う反面、昨年50周年を迎え大きなプレッシャーの中で井溪理事長をはじめとする三役が2015年度のスタートを切った今だからこそ厳しく自分は臨もうと心に決め一年を過ごさせていただきました。スローガンが示す通り三役の積極的であり力強い行動力によって、メンバー全員の志は高い一年であったと感じています。

直前理事長として経験させていただいた2015年度の経験を無駄にすることなく、メンバーに対して伝えていくことの担いを自身の最終年度までしっかりと全うさせていただきたいと感じております。

最後の最後まで私の意見に対し全力で取り組んでいただいた大宮委員長、三澤委員長、中田委員長、有難う御座いました。また委員長を牽引し続けてくれた三役の皆様、直前理事長の担いを与えていただき感謝致します。最後に委員長を最後まで支えてくれたメンバーの皆様に感謝を申し上げ直前理事長としてのご報告とさせていただきます。有難う御座いました。

監事 佐藤 元康

一般社団法人千歳青年会議所は中長期ビジョンとして運動方針並びに3つの行動提案を創立50周年を機に策定いたしました。その一つとして「志高い市民」集う千歳創造運動を推し進める2013年度から続く『市民討議会』、「地域の魅力」輝く千歳創造運動を推し進める『CHITOS E RIVER CITY PROJECT』、そして「ふるさと愛」溢れる千歳創造運動を推し進める本年新設された『千歳ふるさと青年大使は君だ!』と千歳青年会議所が進める運動の柱が出揃い、本年度はそれぞれの未熟な事業を一つひとつ丁寧に磨き上げることが重要な事項でありました。本年、監事というお役目をいただいたなかで、決してJC経験者としてのJC目線だけではなく、市民寄りの客観的な目線で物事を見させていただくことに注力した一年でありましたが、委員長をはじめ事業を作り上げる会員の皆様におかれましては一切妥協をすることなく市民をはじめ企業や行政と多くの人々を巻き込みながら事業・運動を推進されておりました。また、その事業を作り上げる過程での議案においては、少々三役会での詰めの甘さは感じられたものの各委員長には今後の千歳青年会議所における基礎となるものを創り上げていただいたものと感じております。是非とも理事の皆様におかれましては本年の経験を次世代へ引継いでいただき更なる組織の進化を望みます。最後になりますが、本年で卒業を迎え現役生活にピリオドを打ちますが、皆様と共に得た情熱を忘れることなく運動の下支えをいつまでもさせていただくことをお約束し2015年度の報告とさせていただきます。

昨年に引き続き本年度も監事を務めさせていただきました。ただ、昨年と違い今年度は千歳青年会議所の正会員ではない「外部監事」として1年間の活動を見させていただきましたのでご報告します。

2014年度は千歳市民の皆様をはじめ、行政機関や各種団体の方々の温かいご支援ご協力のもと、千歳青年会議所は創立50周年を迎えることができました。記念式典や祝賀会そして50周年を機に新たな運動方針や行動提案を作成し、そして新たな事業も立ち上げました。そうした大きな節目を迎えた翌年はいわゆる「燃え尽き症候群」のような、何となく運動の推進力や勢いが停滞しがちですが、正会員の皆さんは決してそのようなことはなく、「市民討議会」「リバーシティプロジェクト」などの継続事業では昨年の事業をより昇華させることを、新規の「ふるさと事業」では高校生に対するふるさと意識への効果的なアプローチをそれぞれ追い求めていました。各委員会の事業や例会への取り組む姿勢には改めて敬意を表します。

ただ、理事会運営に関しては若干残念だったところがあります。資料の修正の不備や添付の不足、質問への答弁が曖昧な部分があり、それらが原因で「議事進行の中断」や「議案取り下げ」ということがありました。こういった教訓を踏まえて2016年度の理事会は議事の中断や強制終了などが無く、より活発な議論が交わされる理事会になることを期待します。

これからの千歳青年会議所の運動が若い正会員によって、益々力強い推進力を生み出すことを期待して監事報告といたします。

副理事長 増子 洋行

まちの魅力推進委員会と市民力推進委員会の2委員会を担当の副理事長として活動させていただきました。2015年度は50周年事業として開催したCHITOSE RIVER CITY PROJECTの2回目の実施、3年目となる千歳市民討議会の実施と事業を市民運営型組織へ運営を移行することが主なテーマでした。

まずは6月に実施した千歳市民討議会に関してですが、2014年11月より討議参加者の有志とJCメンバーによる実行委員会の設立し運営にあたりました。実行委員会の運営に関してはまだ至らず問題もごさいますが、初年度として実行委員会の運営を通じて市民自らがまちづくりの意識変革を促すことができたと考えます。

続きまして、7月に実施したCHITOSE RIVER CITY PROJECTですが、本年度は2年目の開催として前年での問題点の解決と常設型オープンカフェに向けて関係官庁との協力体制を構築、市内の内需にとらわれず観光客を呼べるような観光資源へ昇華させることが目標でした。今年度は運営の財源確保に北海道の協力を得ての実施となり、2年目を終えて事業の方向性を改めて確認することができ翌年度へ引き継ぐことができました。

担当させていただいた2つの事業は単年度では成果が出ないものであり、長期的に市民へアプローチし続けることで、まちの成長と活性化につながると考えます。長期持続可能な運営モデルを構築し、時代にあわせてモデルを最適化し続けることが必要と感じました。

運営にあたり、2委員会の委員長並びに委員会メンバーには相当の苦勞をかけたと思っております。この場を借りて感謝とお礼を申し上げます。

簡単ではございますが、副理事長報告とさせていただきます。ありがとうございました。

副理事長 高田 周一郎

2015年度は、副理事長の職を与えられ、井浜利光理事長のサポート及びふるさと愛推進委員会を担当させていただきました。

井浜理事長のスローガンを実現するため、三役会では深夜まで徹底的に議論し、多くの議案に対して意見とアドバイスをさせていただきました。また、理事長とともに京都会議、サマーコンファレンス、コタキナバルにおけるアスパック、八戸での全国大会、網走における地区大会、会員会議所会議、エリア会議等にも時間の許す限り出席することで理事長をサポートするとともにLOMのメンバーの模範となるように努めました。

また、ふるさと愛推進委員会では、今年度「ふるさと事業」という新事業を立ち上げることが大きな担いでした。そして、高校生が千歳のことを学び地域の魅力を発信する活動を通じ、地元への強い愛着と誇りをもった次世代のまちづくりのリーダーとなっていくことを目的として、「千歳ふるさと青年大使は君だ！2015」を実施いたしました。事業当日は37名の高校生に千歳の魅力についてプレゼンテーションをしていただきましたが予測を遙かに上回る素晴らしい発表となりました。年当初は、三澤委員長とどのような事業にするのか議論しましたが、事業内容が決定してからは、委員会メンバーの活動を見守るだけで十分でした。三澤委員長をはじめとするふるさと愛推進委員会メンバーを誇りに思います。

専務理事 中山 千太郎

本年、創立51年という長きに渡る一般社団法人千歳青年会議所の専務理事を拝命し早くも1年が経ちました。第52代井浜利光理事長をお支えするべく年当初からの関係諸団体の新年交礼会に始まり、公益社団法人日本青年会議所の事業、総会、海外、全国各地での諸大会や、道内の各地青年会議所周年記念式典、事業、例会に随行させていただき多くの学び、気づきをもって職務を務めて参りました。また、正会員につきましても本当に多くの参加をいただき、結果、自己の成長と意識改革につながったものと拝察しております。

しかし、井浜理事長の掲げた志高い理事長所信に対する専務理事の任務、また千歳青年会議所の組織運営を本当に全う出来たのかを自問自答すると、決して私一人の力では無く、多くの正会員の協力により支えられ本日まで専務理事の職を担うことが出来たものと痛感いたしております。今後は次年度専務に対して私が専務理事として経験した多くの知識、見識を伝えます。さらには失敗や成し得なかったことの多くを成功への糧として活かします。任期は年内ではありますが引継ぎをしてこそ初めて専務理事の任を終えられるものと考えます。

最後になりましたが各事業例会で本当にお世話になりました関係諸団体の皆様、本年も絶大なるご協力とご支援をいただき、さらには温かい激励のお言葉を掛けてくださいました先輩諸兄の皆様、同志として一年間一緒に汗を流した正会員の皆様に対しまして心よりの感謝を申し上げまして専務理事報告とさせていただきます。

当委員会では、千歳青年会議所の運動方針に掲げる行動提案「地域の魅力」輝く創造運動を実践すべく、井溪理事長の所信を委員会活動の柱とし、この一年間各例会、事業に取り組んで参りました。当委員会最初の例会となった3月例会では、当市の地域資源である千歳川の活用と『CHITOSE RIVER CITY PROJECT』に向けて、正会員の意識の醸成を図り議論を活発にすること、そして昨年度参加していただいたボランティアスタッフや出演者、事業に関係する各団体との協力関係の構築を目的に「ミズベリング千歳会議」を開催しました。例会当日は、63名が出席し皆様と事業実施に向けた機運を高めることが出来ました。

そして当委員会が託された最も重要な事業である『CHITOSE RIVER CITY PROJECT』では、委員会活動方針にも掲げた、市民をはじめ市外の方にも千歳川に愛着を持っていただき、千歳に対する魅力を感じていただくことを今年の事業の目的として事業を構築して参りました。2年目の開催となった本年は、専用のホームページを開設し積極的に内外に情報発信した他、ラフティングボートを使った清流下りや、学生ボランティアによる紙飛行機教室など、幅広い年齢層にも楽しんでいただけるよう昨年にはない企画を取り入れました。また、本事業のコンセプトであるオープンカフェの雰囲気をもっと充実させるために音楽ステージの出演者や飲食ブースの数を増やし、来場された方がくつろぎ楽しんでいただける会場づくりを行いました。今年は、昨年の来場者を大きく上回る1万人の方にご来場いただき、地域資源としての千歳川の魅力を感じて頂くことが出来ました。そして10年構想でもある常設型オープンカフェの実現に向け大きく一歩踏み出すことが出来た1年となったと考えております。

市民主導の「まちづくり」の実現に向けて、2013年度より実施している千歳市民討議会ですが、更なる市民主導の「まちづくり」を目指すため、昨年末千歳市民討議会実行委員会を発足しました。本年度は千歳市民討議会実行委員会の基盤を作るべく、過去2年間に参加して頂いた市民を中心とし千歳青年会議所メンバーを加えた25名で形成されました。

2月例会では三上准教授にて、討議会の内容や考えるべき課題を提示して頂き千歳市民討議会実行委員会の方向性を見出しました。6月例会では、千歳市民を対象に2,000名の無作為抽出をさせて頂き、第三回千歳市民討議会を開催、58名の方に参加頂きました。例年を下回る参加者となってしまいましたが、例年に比べて若い参加者の増加が見られました。今回は、「千歳中心市街地の賑わいについて」と、「千歳川の環境問題」について参加者に討議をして頂きました。本年度は千歳市民討議会実行委員会を発足していますので、討議結果を考察・調査をし、9月例会にて、参加者・千歳青年会議所メンバーに報告をさせて頂きました。その内容を千歳市民討議会報告書(提言書)としてまとめ、各関係者に内容の濃い千歳市民討議会報告書をお渡し出来たと思います。

そして、最後の市民力推進委員会の担いとして、12月例会を担当させて頂きました。先輩諸氏に1年間の活動報告と正会員メンバーの労い、更にはこれまで千歳青年会議所の発展に尽くしてこられた卒業生へ感謝の気持ちをお伝えしました。

最後にこのような機会を与えて下さり、未熟な私をご指導して頂いた三役の皆様と支えてくれた市民力推進委員会、メンバーに感謝申し上げます。一年間本当にありがとうございました。

当委員会最初の担いとして、年頭に新年交礼会を実施致しました。これまで千歳青年会議所は地域の皆様のお力添えをいただきながら地域に寄与する団体として、半世紀もの間活動して参りました。その50年という節目の年の活動を終え、これからも地域に必要とされる団体として新たな一歩を踏み出すべく本年度の運動の方向性をこの新年交礼会にて示すことが出来ました。

また、当委員会のもう一つの重要な担いとして、50周年を機に策定された新たな行動提案の1つであります「ふるさと愛溢れる千歳創造運動」を实践すべく本年度は、新規事業であります「千歳ふるさと青年大使は君だ！2015」を計画・実施致しました。その準備段階においては、4月例会に地域の教育機関関係者や諸団体の皆様をお招きし、ふるさとやふるさと愛とは何かという本当に初歩的なところの定義づけから始まった事業の方向性について説明し、事業の構築に努めました。そして、事業内容と致しましては8月に千歳市内にあります3つの高等学校及び高等支援学校に在学中の生徒を対象とし、地域のことを学び、人に伝える経験を通じ、ふるさと愛を醸成すべくプレゼンテーションコンテストを実施致しました。当日は9組37名の生徒に発表していただきましたが、生徒の皆様は本当に真剣に取り組んでいただき、千歳には次世代を担う多くのニューリーダーたちがいることを認識することが出来ました。また、事業終了後には10月に報告例会を行い、事業の効果を検証し、次年度以降の実施に向けた礎を築くことが出来ました。

結びに、本年度我々の担当する事業・例会の実施に際し、多くの地域の皆様や先輩諸兄にご協力を賜りましたこと、深く感謝申し上げます。次年度以降も明るい豊かな社会の実現を目指し、ふるさと事業を発展させていく所存でございますので、今後とも変わらぬご指導の程、よろしくお願い申し上げます。

出向者報告

公益社団法人日本青年会議所 総務グループ 渉外委員会
公益社団法人日本青年会議所 北海道地区協議会 J C 運動発信委員会

委員 勝俣 雅代

現役最終年度、本会、北海道地区協議会へダブル出向させて頂きました。昨年笹島副会頭とご縁を頂く機会があり、同じ年ということもあり卒業年度に日本に出向してみないかというお話を頂き、日本青年会議所渉外委員会笹島顧問補佐として出向致しました。日本への出向は未知の世界でしたが、まず日本各地の方と共に活動できたことに加えて、京都会議やアスパック、サマコンの裏側を知ることが出来たこと、役員会議をオブザーブ出来たことなど大変貴重な経験を得た出向となりました。こんなにも多数の方の力によって幾多の壮大な事業が開催されているということや役員が膨大な時間をかけて議案を精査していることなどを知る事が出来たことは後輩に是非語りついでいきたいと感じました。また、北海道地区協議会への出向ですがこちらは発信が好きな人に是非出向してもらいたいと植村会長から直々にお声かけを頂き出向させて頂きました。

様々な事業での写真撮影、発信、ファンクションだけにとどまらず月刊情報イノベーターの発行に伴い北海道を発信する為の取材、コラムの依頼、など少人数の委員会でありながら担いは山ほどありましたが委員会メンバーと手助けし合いながら乗り越えました。

最後の出向では北海道全道、日本全国のそれはそれは沢山のメンバーと仲良くなる事が出来、一生の財産になるであろう出会いばかりでありました。LOMの人数も少ない中ダブル出向をさせて頂いた事に感謝申し上げます。本当にありがとうございました。最高の最終年度となりました。

公益社団法人日本青年会議所 総務グループ 渉外委員会

委員 吉岡 毅

今回で2回目となる公益社団法人日本青年会議所への出向。私の出向した公益社団法人日本青年会議所、総務グループ渉外委員会では日本J Cの諸大会・事業への支援及び連絡調整、日本J C役員のアテンドを主な目的とし、全国各地青年会議所から150名を超えるメンバーが集い、第1小委員会から第6小委員会までの6つの小委員会で構成されています。

私が配属となった西田副委員長率いる第2小委員会では、約35名のメンバーで構成され国家グループ担当である森本副会頭の補佐として活動しました。第2小委員会が中心となって渉外活動をするファンクションとしてはサマーコンファレンス2015や根室で開催された第46次北方領土返還要求現地視察大会があり、補佐を通して日本J C役員が多様なスケジュールを目の当たりにしました。その他、森本副会頭が参加する全国各地の行事には第2小委員会のメンバーが補佐として参画しました。

国内外の青年会議所運動の全てにおいて渉外委員会が深く関わっており、水面下で行われる様々な現場を体感することで改めて青年会議所の持つスケールの大きさを実感しました。そして、今回の出向を通して学び、気付いた各種大会の目的や意義をLOMメンバーと共有し、メンバー一人ひとりが様々な事業や大会へ自発的に参加していけるよう努めて参ります。

来年は北海道地区協議会と日本青年会議所、両方の委員会に、幹事、委員として出向します。そこで得た経験をLOMの運動に役立てることができるよう新たな担いと向き合って参ります。

顧問 佐藤 元康

本年は、植村真美会長率いる300名を超える出向者の皆様と共に「溢れるほどの夢を描け！たから島北海道の創造」のスローガンのもと地域のたからは人によって磨かれ、人と人とのつながりによって地域の可能性が膨らみ、そして、かけがえのない地域のたからは熱き思いをもって動き出す一人ひとりの存在が大切であるという思いのもと運動を展開して参りました。

昨今、日本では少子高齢化に伴う出生率の低下や人口減少により、30年後には今ある自治体の半数の消滅が予測され、特にこの北海道においては他の都道府県に比べ自治体の減少率が最も多いと予測されております。そこで、自分たちの地域が置かれている状態を受け止め、自分のできることから新しい価値を創りだし、イノベーションを起こすといった意識を強めることがこれからの北海道には必要だという思いのもと「北海道JCフォーラム2015」が開催され、都会にはない田舎の良さ、隣まちにはない自分のまちだけのよさ、「らしさ」の追求を表現できたと感じております。また今を生きている自分達に関わる地域、会社、家族といった郷(さと)というすべてのつながりの中にいる自分が「たから」そのものであり、また、その「たから」が夢を抱き、夢に向かって輝くことで自分が愛する郷を守ることにつながるのだということの気づきを得た「第64回北海道地区大会網走大会」と各委員会の単独事業を含め多くの発信を行いこれからの北海道の可能性を広げることに十分寄与できたものと感じております。

最後になりますが、出向を通じ得た経験と多くの出会いに感謝申し上げ1年の報告とさせていただきます。

公益社団法人日本青年会議所北海道地区協議会 道央エリア運営会議

運営議長 南雲勇次

入会以来、初めて出向という機会を本年頂きました。道央エリア運営会議では78名ものアカデミー塾生をお預かりさせていただき、運動を進めてまいりました。千歳青年会議所からも5名のアカデミー塾生と岡田幹事、鳴海議員にご出向頂き多くのご協力をいただいたことで、一年の総括の場である道央エリア大会IN栗山を無事に終了することができました。

また2月に開催いたしましたアカデミー塾生の入校式あり第一回アカデミー研修塾でもあるウィンターコンファレンスでは、千歳での開催ということで多くの千歳青年会議所メンバーにご協力を頂き有難う御座いました。塾生自身が「道央のたから」となるべく運動を展開させていただいた本年、三回のアカデミー研修塾、交流事業、道央エリア大会と5回の事業を通じ、しっかりと塾生一人一人がJAYCEEとしての自覚と地域を牽引する人材としての責任を共有し成長できたものと確信しております。そして本年は初の試みでもあります全道アカデミーを4エリア共催という形で地区大会が開催されました網走の地で実施させて頂きました。地区大会開催期間中という日程であったため塾生の参加人数は少ない状況でありましたが、北海道地区協議会という大きなフィールドを生かした中で多くの仲間と絆を醸成できたものと感じております。

最後となりますが本年出向という機会を頂いた千歳青年会議所メンバーの皆様、本当に有難う御座いました。

幹事 岡田 恵

本年度、道央エリア運営会議 幹事として出向させて頂きました。本年度 道央エリア運営会議では、ウィンターコンファレンス、アカデミー研修塾、道央エリア交流事業『道央スポフェス2015』、道央エリア大会と4本の核となる事業をやらせて頂きました。

過去何度かフロアメンバーとして出向させて頂きましたが、今回は幹事という役職を頂き当青年会議所のメンバーである南雲議長を支えるべく担いを受け1年間やってみりました。2015年度の道央エリア運営会議では『道央のたから』とは何か？それはそれぞれの地域にいる人ではないか、という事でそれぞれ違う地域のメンバーが互いに切磋琢磨することが道央エリア全体の輝きに繋がることを意識して事業を取り組んでまいりました。

道央エリアの事業に関わらせていただき、私自身大変刺激になり多くのことを学んだ大変貴重な一年でありました。最後に本年このような機会を与えて頂きました井浜理事長はじめと致します、メンバーの皆さまに感謝を申し上げます。一年間ありがとうございました。

議員 鳴海 昌成

青年会議所に入会して初めて出向させて頂きました。私の出向した道央エリア運営会議では、主に道央エリアの「地域のたからは人」という位置づけにて交流をメインとした運動を展開して参りました。まず2月には一年間の初めてエリアの意識共有を目的とした「ウィンターコンファレンス」。5月にはよりメンバー間の交流を目的とした「道央スポフェス2015」そして、道央エリアの集大成となる一年間活動してきたメンバーの成長によって互いに感化される場を創造することを目的とした「道央エリア大会IN栗山」等の運動を展開して参りました。

また、入会3年未満の会員を対象に地域をけん引するリーダーを養成する「道央エリアアカデミー研修塾」の運営も同時に進めて参りました。私は運営会議にて小幹事という役職をいただき、主に北海道地区協議会との財政的な調整や、アカデミー要覧等の資料作成に関わる補助的な活動を行って参りました。道央各地より集まってくる運営会議体で築く一体感をそのまま事業に持ち込めば、エリア交流など難しい話ではないと思ひ活動をして参りましたが、アカデミー研修塾も含め各事業での動員を思うように増やすことができず、道央エリアとしての一体感を完全に引き出すことができませんでした。

来年度は違う出向先となりますが、LOMメンバーには道央エリア事業に限らず、事業の目的をしっかりと伝えた上で、各種地区事業の参加の促しを積極的に行っていくことを来年度の目標とし、出向者報告とさせていただきます。

副委員長 瀧 雄一

昨年度の地区出向に続き、本年度は、地区大会運営委員会副委員長として出向をさせていただきました。地区大会運営委員会の担いとしては植村会長が掲げる「溢れるほどの夢を描け！～だから島北海道の創造～」を実現すべく、恵庭青年会議所より出向する波多野委員長の下、地区協議会の集大成である第64回北海道地区大会網走大会の構築が与えられた業務でした。本年も全道各地より約300名の出向をいただいた地区協議会でしたが、無事に2015年度の運動が終了し、自分自身も出向者として担いを終えることができました。

本年度の出向を通じて、過酷な環境の中で自己犠牲を払いながらも、自分以外のことのために、多くの努力と時間を費やし続けた波多野委員長をはじめとする委員会メンバーや、主管LOMであります中村理事長、石垣実行委員長をはじめとする網走青年会議所メンバーのその姿は、私に大きな気づきと影響を与えてくれました。青年会議所が学び舎であるためには、そのような仲間が増えていくことが重要だと感じた1年でもありました。出向の機会を得るということは、自らをさらに成長させるチャンスを得ることと同義です。一瞬一瞬を大切に、これからも臆することなく、積極果敢に挑戦していきたいと思います。

最後に、多くを与えていただいた地区大会運営委員会メンバーや網走青年会議所メンバー、そして本年も出向の機会を与えていただいた千歳青年会議所メンバーに最大限の感謝を申し上げ、私からの出向者報告に代えさせていただきます。

塾生報告

道央エリアアカデミー塾

塾生 曙 嘉輝

私は2015年1月に一般社団法人千歳青年会議所に入会させて頂きました。父も青年会議所〇Bということもあり、いつかは入会すると考えておりましたが、ある先輩の一言が入会を決意させて頂きました。

まだ青年会議所とはどのような組織なのか、右も左もわからぬままの私でしたが1年目にして道央エリアアカデミー塾へ出向させて頂ける機会を頂戴致しました。最初の入校式では極度の緊張と同志との交流に胸が躍ったことを懐かしく感じます。

アカデミー塾への参加は社業と重なり多くは叶いませんでしたが、塾長を務めてくださった檜館塾長におかれましては、自身の選挙というご多忙にも関わらず多岐にわたりご指導を賜りましたこと、この場をお借りして厚く御礼申し上げます。

最後に、アカデミー塾で共に学んだ仲間たちとアカデミー塾を運営するにあたり携わって頂いた全ての方々、出向を快く送り出して頂いた千歳青年会議所会員の皆様に感謝を申し上げ出向者報告とさせて頂きます。1年間ありがとうございました。

道央エリアアカデミー塾

塾生 伊藤 香織

入会して一年、アカデミー塾生として出向させて頂きました。アカデミーでは多くの人達と出会い「JCとは」、「仲間とは」と様々なことを学ばせて頂きました。また、幅広いネットワークのつながりに出会えた事に感謝しています。

運営の方々には塾生に対しJCについての楽しみや学びを伝える為に、寝ずに準備等して下さってありがとうございます。その背中を見せていただき、自分が少しでも成長してLOMに色々なことを持って帰ることが出来たと思います。

出向させて頂き、アカデミーという素晴らしい機会をいただいたことを千歳青年会議所に感謝申し上げ、私の塾生報告とさせていただきます。

道央エリアアカデミー塾

塾生 今井 涼

2015年1月1日に一般社団法人千歳青年会議所に入会させて頂き、入会后すぐに道央エリアアカデミー塾へ出向させて頂きました。

アカデミー塾では、入会3年未満のメンバーが集い、1年間通じて共に学びを得ることができました。特にそれぞれ異なる地域やLOMに所属しているにも関わらず、同じ志を持った仲間がたくさんいることに刺激を受けました。アカデミー塾は全6回ありましたが、日程が調整できず4回しか参加できず今しか体験できないことを逃してしまったことを後悔しています。

アカデミー塾を通じて、同じ志を持った仲間がいることの心強さを再認識すると共に、今後与えられた機会は積極的に取り組んでいきたいと決意しました。この経験を通して学んだことを胸に刻んで、今後の自分の人生、青年会議所活動に活かしていきます。アカデミー塾出向の機会を頂きありがとうございました。

道央エリアアカデミー塾

塾生 大宮 裕輔

千歳青年会議所に入会し2年目となった今年、道央エリアアカデミー研修塾の塾生として出向させていただきました。道央15LOMから入会3年未満の会員が集まるこの研修塾では、グループディスカッションやスポーツ交流、講演などを通じて、自身の成長や人脈を広げることが出来ました。アカデミー研修塾では奥山塾長のもと、道央から集まった多くの塾生と出会い、年齢や経験、立場の違う方々との交流を通じ、入会動機や互いに違うLOMに所属していても自らが住まうまちに対する熱い想いは誰もが共通しており、同じ志を持つ仲間として今後のJCとの向き合い方など多くのことを学び刺激になる1年となりました。

アカデミー塾生と過ごした時間は決して長くはありませんでしたが、志の高い多くの仲間と密度の濃い有意義な時間を過ごすことが出来、非常に貴重な経験をさせていただきました。この経験をしっかりと今後の千歳JCでの活動に繋げていきたいと思えます。

最後になりますが、このアカデミー研修塾を運営するにあたりご尽力された道央エリア運営会議のスタッフの皆様には心から感謝申し上げます。1年間ありがとうございました。

自分は2014年1月に千歳青年会議所入会し、ただひたすらに与えられた責務を全うすることだけを考え、1年間活動を行いました。そして、本年度の組織が形成されていく中、委員長を拝命することになりました。しかし、入会して1年という短い時間の中で新たな担いを受けていくことに対しては不安を感じておりました。そんな時に入会3年未満で、地域へ寄与する運動を行いたいと願う共通の志を持った多くの道央エリアアカデミー塾生の皆様とともに、檜館塾長のもと青年会議所活動について学ぶことの出来る機会が道央エリアアカデミー塾でありました。

千歳の地で行われた開校式をはじめに、各種セミナーに加えてスポーツ交流などを通じて、境遇を共にする多くの仲間たちと出会い、時間を過ごせたことは大変貴重な経験となりました。

また、今後地区協議会等へ出向を視野に入れるとこれからも互いを刺激し合い、支え合っていくことの出来る貴重な出会いだったと感じております。

結びに、今回のアカデミー出向で得た経験を今後の青年会議所活動の糧にしていくことお誓い申し上げます。1年間ありがとうございました。